

環境振動運営委員会 第2回議事録（案）

- A. 日時 2013年07月01日 月曜日 17:30～19:50
 B. 場所 建築学会会議室
 C. 出席者 横山主査 他10名（内1名ネット参加）

D. 提出資料（提出委員名）

- No.2-00 前回議事録案
 No.2-01 第2回議事録（メモ）
 No.2-02 環境工学本委員会報告
 No.2-03 2013年大会プログラム編成会議報告
 No.2-04-1 環境振動評価小委員会活動報告
 No.2-04-2 居住性能評価指針検討WG活動報告
 No.2-05 環境振動測定分析小委員会報告
 No.2-06 環境振動予測解析小委員会活動報告
 No.2-07 広域評価モニタリングWG
 No.2-08 平成13年度環境振動シンポジウム案
 No.2-09 道路交通振動の予測に関するアンケート調査票

E. 議事内容

O. 前回議事録確認（資料 No.2-00）

- ・2-4 委員会の内部資料 → 小委員会の内部資料
- ・2-6 ・全文 → ・ISOの内容をベースに性能設計の枠組みで体系化する方向で作業を進めている。現在、その枠組みが出来上がっているため、近日中に小委員会を開催し、方向性に関する議論を行いたい。
- ・3 ・予算配分 小委員会の名称 → 現在の小委員会の名称に変更 了承された。

第2回議事録（メモ）（資料 No.2-01）に従い、議事を進行させた。

1. 環境工学本委員会報告

5/31 環境工学本委員会（資料 No.2-02）

- ・環境工学本委員会名簿
 - ・2014年度日本建築学会大会(近畿)
2014年9月上旬～中旬（3日間 未決） 神戸大学
 - ・シンポジウムの運営方法について
シンポジウムの運営において、人件費、間接経費を含む採算性を配慮し運営する.15%の間接経費（事務局）を見込むこと。
 - ・2012年度予算消化率
 - ・2013年度調査研究委員会予算配分案
 - ・旅費支給時の証憑の提出
 - ・委員会資料のPDF化と事前配信
- 運営委員会の報告事案を2日前までに、委員会用オンラインストレージに入力する。
 →基本的に運営委員会のストレージから印刷して（またはPC持参で）会議に臨む。
 →間に合わない資料は、当日発表者が15部を持参すること。
- ・大会学術講演会・建築デザイン発表会題数

→過去最大の論文数であった.

- ・若手会員の活躍の場の創設

→(メール審議の項参照)

- ・2013 年度大会学術講演会から英語のセッションを設置の依頼
- ・2013 年日本建築学会賞【論文】
- ・大会の在り方検討タスクフォース
- ・大会懇親会について
- ・東日本大震災関連 WG 等の進捗状況報告
原発①生活様式調査、②省エネルギー設計、③代替エネルギー
環境工学委員会を担当.

- ・東日本大震災合同調査報告書目次案

2013 年 10 月中旬 原稿の最終調整

→環境振動からは、国松委員が参画、入稿され査読の状態である.

- ・調査研究関係専門委員会に関する共通規定 →確認事項
- ・第 27 回環境工学連合講演会企画枠組み案
- ・刊行物の在庫処分について
- ・シンポジウム実施報告
- ・予算執行状況について
- ・委員会に不参加の場合、可能であれば skype 参加をお願いしたい。

4/24 2013 年大会プログラム編成会議報告(資料 No.2-03)

→前回報告に資料を添付した.

2. メール審議事項

- ・委員 1 名、日本建築学会を退会されたので、自動的に運営委員会委員も退任となった。

(学会規定による)

- ・若手の優秀講演者を表彰する制度

環境工学本委員会にて、若手の発表の表彰の在り方について各運営委員会にて意見をまとめて 6 月末には本委員会に提出されたいとのこと。添付資料にあるように 691 人の対象の 2 割を表彰したい。今年から実施するとなるとどのような選び方があるのか？今年はまだ拙速か？大会の司会が評価するか？審査者が大変になる。(環境振動の場合、対象となる若手は 5 名でするので 1 名が対象か？)

→横山主査案 (メール審議とする.)

若手の表彰制度について(横山主査統括意見)

1. 建築学会として、若手を対象とした表彰制度を設けること自体、賛成という意見が大半であった。

ただし、「若手(特に学生)は、所属機関の継続的なテーマの一部を発表する場合も多く、その場合、たまたま完成度の高い部分を担当できた学生が表彰されるというのは、教育効果として疑問を感じる。

また、継続的なテーマの論文に対して年度を跨いで複数の発表者が表彰されたり、あるいは他学会で同じ論文が表彰されたりといった、重複受賞の問題も懸念される。制度そのものには反対しないが、慎重であるべきだ」との意見もあった。

2. 若手発表者(投稿時 20 代)の 2 割程度を表彰とのことだが、あまり多くの方を表彰しすぎると賞の価値を下げてしまうので、妥当な数を検討すべき

3. 学会(環境工学本委員会)として表彰するのであれば、学会(委員会)全体として統一した評価基準や採点方法の設定が必要。

評価対象は、論文内容(の理解度)+発表能力 ということになる。

少なくとも、共通の評価項目、評価基準の策定が必要。

おそらく、セッションの司会者が中心となって採点することになると思うが、分野によっては十分な研究歴や業績のない方が司会となっている事例もあるようなので、プログラム編成会議における司会の選定にも、ある程度のルールが必要となってくる。

また、審査員は、司会のみでなく、複数とする必要があるとの意見もあった。

さらに、セッションごとではなく、全体を通して共通の審査員が必要との意見もあった。ちなみに、環境振動のセッションに関しては、現状では審査員として十分適格な者が司会に選定されているし、さらに複数の審査員を設けるということであっても、直前の運営委員会などで、あらかじめ各セッションの審査員を決めておくことで、おそらく対応可能と思われる。

4. 「3.」で述べたような事前に検討、整備すべき事項の多さから考えると、本年度の大会で実施するのは時間的に困難ではないか」という意見がある反面、「表彰には多かれ少なかれ審査員の個人差が含まれてしまうのは致し方ないことだし、若手にとっては励みになるばかりでなく、他学協会の同様の賞の例を見ると、就職活動の際多少役に立つこともあるようなので、まずはやってみては」という意見もあった。
5. 上記の通り、表彰制度の設定自体には賛成という意見が大半であったが、本年度からの実施は尚早という意見と、まずはやってみてはという意見に別れている。

運営委員会としては、表彰者数や、評価基準、採点方法の件も含め、最終的な判断は、本委員会における他の意見も含めた議論の中で、主査に一任する

- ・環境振動測定分析小委員会新委員：3名
- ・環境振動性能評価小委員会新委員：3名
- ・環境振動予測解析小委員会新委員：3名

運営委員会では、以上9名を承認した。手続き上から、7月第2週以降から小委員会への参画が許される予定である。

3. 各小委員会・WG 活動報告

3-1. 環境振動性能評価小委員会活動報告(資料 No.2-04-1)

- ・05/10 開催分について、資料に基づく報告があった。
- ・「2013 年度活動計画」の方針説明があり、審議を行った。退任委員が4名あり公募し3名の参加があった。
- ・ISO2631-2の改定時にあたり、2631-1との整合性について改定要請をした。
- ・気象庁の長周期地震震動の階級が報知され、学会の振動知覚評価と異なる部分もあり、今後も経過を見ることとした。

3-2. 居住性能評価指針検討WG 活動報告(資料 No.2-04-2)

- ・05/20 開催分について、資料に基づく報告があった。
 - ・評価指針の枠組みについて、振動をパラメータごとに分類し人体側の反応を探る。そのための文献調査と検討を行う。
 - ・設計指針と評価指針は独立して検討する。
 - ・振動における時間軸の影響について審議した。
 - ・データの再分析など人手が必要で、WG委員の増強を図る。
- WGの人選の承認がれば、運営委員会でも承認をする。

3-3. 環境振動測定分析小委員会報告（資料 No.2-05）

- ・ 04/09 開催分について、資料に基づく報告があった。
 - ・ アンケートの調査結果を大会投稿、内容報告を行った。
 - ・ JR 武蔵境駅沿線実測について、今後も審議していく。
 - ・ 「計測器の現状と未来」と題して、リオンの担当者から報告をして貰った。
- 無線 WiFi システムはタイムラグやデータの欠落等の欠点もあるが、計測対象を選定すれば実用的に用いることが出来る。

3-4. 環境振動予測解析小委員会活動報告（資料 No.2-06）

- ・ **05/24** 開催分について、資料に基づく報告があった。
- ・ ブラインド解析は大会発表で完了させる。
- ・ 活動成果は小委員会内で配布とし、追記、修正中である。
- ・ 「2013 年度活動計画」の方針説明があり、各年度の大会梗概を分類し要約の作成を行っていく。
- ・ 退任委員が 3 名あり公募により 3 名の参加があった。（

3-5. 広域評価モニタリング WG（資料 No.2-07）

- ・ 06/19 開催分について、資料に基づく報告があった。
 - ・ 環状 7 号線、6 号線の交差する亀有地区を調査対象と考えたが、現地踏査の結果、計測に不便で再考が必要なことが分かった。
 - ・ 次候補として、下神明、五反田を考えている。
 - ・ 高層ビルを対象とした事例が無いので今後着目する。
- 高層住宅なら三井不動産など、リペアの部屋がある。それらを利用することも一案。
→科研費に申請して研究費を得るのも一案。

3-6. 環境振動企画検討 WG（資料 No.2-08）

- ・ 05/28 開催分について、資料に基づく報告があった。
- ・ 平成 13 年度環境振動シンポジウム案が説明され、概略の演題が示された。
- ・ 「居住性能評価指針の新たな方向性 - 評価と設計の分離 -」の題案については承認された。
- ・ プログラム案について以下の修正が出された。
 - ① 居住性能評価指針の改定の全体像→趣旨説明
 - ② 方向性→枠組み
 - ③ 5.居住性能設計指針の枠組みの前に、6.居住性能ランクを入れる。（5.と 6.が入れ替わる）
 - ④ 鉛直振動、水平振動の keyword：時間を考慮した、ランダム波。
 - ⑤ 10月に WG を開き、講演者を集め趣旨の説明を行う。

4. その他

- ・ 日本騒音制御工学会からの依頼（資料 No.2-09）で、「道路交通振動の予測に関するアンケート調査票」を環境振動の委員に送付したい旨の報告があった。事柄は承認された。
- アンケート結果が 190 件返ってきたが、170 件が自治体からものでサンプルの裾野を広げたい。

・ 年間開催予定

- | | | | |
|------|---------------------|-------------|------|
| 1 回目 | 2013 年 04 月 15 日（月） | 17：30～20：00 | 建築会館 |
| 2 回目 | 2013 年 07 月 01 日（月） | 17：30～20：00 | 建築会館 |

- 3回目 2013年09月30日(月) 17:30~
- 4回目 2013年12月02日(月) 17:30~
- 5回目 2014年01月31日(金) 10:30~12:00
- 同日 第32回環境振動シンポジウム 13:30~18:00

以上

